

## E.FORUM 連続研究会「学校教育における ICT 活用」 実施の様子

京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM では、2020 年 10 月から 2021 年 9 月にかけて連続研究会「学校教育における ICT 活用」をオンライン（Zoom による同時配信）で開催しました。各回の日程、登壇者とテーマ、参加者のご感想、参加者数は下記の通りです。全 17 回の研究会には、延べ 1598 名の方がご参加くださいました。登壇者の皆さま、参加者の皆さまに、心より感謝申し上げます。

### ●第 1 回：2020 年 10 月 16 日（金）

【演 題】「オンライン授業の初歩の初歩」「情報活用能力の体系表例」

【講 師】京都大学大学院教育学研究科・助教 久富望

【参加者のご感想】

「久富先生の『このあたり』『ここらへん』の話を聞いて、この感覚が ICT を使う上での汎用的な力につながるのかなと思いました。市町村ごとに使われる端末やアプリが違う中で、『これじゃなきゃできない』という感覚では、ICT を使いこなせないと思います。この感覚を、幅広い年代の教員が身に付けるべきだと思います。そして、この感覚は、ICT だけではなく、他の教育場面でも必要だと感じました。それぞれに取り組まれている内容を知ることによって、学びが深まりました」「対面型と ONLINE とともに、相手の立場を尊重することに違いはないと感じた。ZOOM ミーティングは、継続することで、生徒や学生が慣れ、先生も緩やかになれていくことが確認できた。継続する ONLINE では、90 分がよいと思いました。西岡先生もお話していらしたように、もう少しというところで止めることで、また前に進めるように思います」（参加者 112 名）



### ●第 2 回：2020 年 10 月 23 日（金）

【演 題】「LMS の初歩の初歩～何のためにあるのか？」

「教育データ利活用をめぐる議論～LMS の次の未来」

【講 師】京都大学大学院教育学研究科・助教 久富望

【参加者のご感想】

「LMS についてよくわかっていなかったもので、『初歩の初歩』として、もっておくべきマインドや、大学での具体的活用例（どのように支援をされていたのかについてもとっても具体的に！）教えていただき大変有難かったです。クラウド上でのデータ活用に対してうっすらとした抵抗感を抱いていましたが、ポリシーに関する無知から抱いているところが大きいのではと気づきました」

「LMS の“Management”と『管理』の違いを改めて認識しました。まだ始まったばかりですが、LMS が、少なくとも自分の開講している授業の『管理』というレベルを超えて、“Management”という設計・開発を加えた管理にまで発展する可能性を秘めた場所であることを確認しました。具体



的には、1 コースの授業の LMS の中でさえも、意図的な設計を加え、系統的な授業管理、そこで学生の学びの深化を計るといった縦横な側面が整理。管理できる場所であることを学びました」(参加者 88 名)

●第 3 回：2020 年 10 月 30 日 (金)

【演 題】「オンライン授業からみえてきた ICT を活用した学びを深める授業とは」

【講 師】京都教育大学附属桃山小学校・教諭 樋口万太郎 先生

【参加者のご感想】

「小学生の ICT 活用力が素晴らしい。習うより慣れろだと実感したと同時にそれを受け取る高校での教育についても考える機会になった」「全国(特に関西)の ICT・GIGA スクールに向けた導入状況が、何となくわかりました。(遅れている自治体に危機感を感じました)樋口先生のような引き出しと、それを組み合わせた『やまなし』は感銘を受けました。参考にさせていただきます」「ICT のメリットを生かした授業の工夫、学びを深めるためには、ゴール設定とそこに向かうための活動、その過程でつながりや個の学びの保障を、ICT を活用して仕組むなど、授業の面白さを再認識した」(参加者 116 名)



●第 4 回：2020 年 10 月 31 日 (土)

【演 題】「休校期間中の熊本大学教育学部附属中学校での取り組み」

【講 師】熊本大学教育学部附属中学校・教諭 三浦寿史 先生、小田修平 先生

【演 題】「頭のど真ん中にある判断基準とは何か」

【講 師】高松市総合教育センター・指導主事 河田祥司 先生



講師 三浦寿史先生



講師 小田修平先生



講師 河田祥司先生

【参加者のご感想】

「具体的な授業のイメージがよくわかりました。また、動画がとてもわかりやすかったです。オンライン授業に向けて、どのような準備や段階を経る必要があるかがよくわかりました。教育委員会の立場からのお話で、市立学校のハード面を整える難しさがどこにあるかがよくわかりました」

「ICT が授業の中でどのように豊かに生かせるのかを、条件の整ったところでの遠隔授業の実践から知ることができたのが収穫でした」「熊本大学附属中の実践は、真似は厳しいかもですが、参考になりました。河田先生のお話は、センターが推進してくださっている様子がよくわかり、ぜひ、共に推進したい気持ちになりました」(参加者 87 名)

## ●第 5 回：「学習データ利活用による授業実践例」2020 年 11 月 13 日（金）

【演 題】「デジタル教材配信システム Book Roll の紹介」

【講 師】京都大学大学院情報学研究科・博士後期課程 黒宮寛之 氏

【演 題】「Book Roll を活用した授業実践の流れ」

【講 師】京都市立西京高等学校附属中学校・主幹教諭 宮部剛 先生



講師 黒宮寛之氏



講師 宮部剛先生

## 【参加者のご感想】

「Book Roll はログが残る点が良い、何をログとして残すかについても、現場のニーズに対応できるところが魅力に感じました。特に休校期間中は、生徒の実態把握が難しく、家庭や本人の自律的な学習に頼ることが大きいので、生徒の学習への向き合い方に関する声かけや支援が具体的にできるようになると思います。また、生徒自身が学習を振り返る時に、自己診断的な活用の可能性も感じました」「Book roll の利用の実際が紹介されたことと、遠隔授業が教室でどのように活用されているのかを学びました。特に後者について、配信されたオンデマンド授業を生徒の判断に任せて時間割を作らせているという点に感銘を受けました。まさに遠隔授業を生徒 1 人一人の学びに活かす方向だと思われました」（参加者 73 名）

## ●第 6 回：2020 年 11 月 21 日（土）

【演 題】「GIGA までの歩みとこれからを考える

—教育のデジタル・トランスフォーメーションの可能性」

【講 師】日本デジタル教科書学会・副会長 片山敏郎 先生

## 【参加者のご感想】

「学術的で難しいかと考えていたが、ICT の使用の現状について整理されていて非常にわかりやすかった。ICT が広く使われている海外の実践に目を向けて、授業の方法自体を変えていく必要があると思った。生徒が情報をまとめたり、表現したりという活動に ICT を使用すると、やはりタブレットでは物足りなくなる。また、教科書はシンプルになるべきで、一人一台 PC が現実になれば、生徒は資料集やそれ以上の情報に、PC から触れていくことができるようになる。現在生徒の通学バッグの重さは異常であり、早く変化するべきだと思う。私はしんどい学校に勤務しているが、生徒は、PC を使うととても楽しい、紙よりも表現しやすいという。楽しい機器であることを考え、教員も楽しく PC スキルを上げていくべきなのだろう」「片山先生による基調講演が、大きな学びにつながりました。これまで参加したオンライン研修では、ブレイクアウトセッションが、その場限りになりがちだったので。今回はブレイクアウトセッションでの話し合いを共有スライドでまとめ、さらに全員が共有しながらコメントがコメントし、



リアルタイムでまとめていただけたので、学びが深まりました。内容もさることながら、手法と効果も体験的に学ぶことができ、収穫が大きかったです」(参加者 61 名)

●第 7 回：2020 年 12 月 4 日 (金)

【演 題】「教育の情報化政策の動向と学校における ICT 活用」

【講 師】大阪大谷大学教育学部・教授 開沼太郎 先生



講師 開沼太郎先生



司会 服部憲児先生

【参加者のご感想】

「行政の考え方がよく分かった。やはり、現場との格差や温度差を感じる場面はあるが、互いに歩み寄る必要性を更に感じました」「全体を通してとても深い学びばかりでしたが、ICT 環境の整備は、ハード、ソフト、ヒューマンの 3 分類に分けるとわかりやすいことが特に印象的でした」「国が、一先ず子ども向けの端末や校内の LAN の整備に力を入れたことがよくわかりました。今回導入した端末等のメンテナンスや買い替え・更新、学校外との通信速度、先生の指導用端末などの話が、後に続くことを期待しています」(参加者 76 名)

●第 8 回：2020 年 12 月 18 日 (金)

【演 題】「パフォーマンス評価における ICT の活用」

【講 師】京都教育大学附属桃山小学校・教諭 長野健吉 先生

【参加者のご感想】

「ICT 活用の最先端の授業の様子を垣間見て、非常に衝撃を受けました。また、パフォーマンス課題、特に、観点の見出し方(協働、振り返りの過程)についてとても勉強になりました」「学習過程において ICT 特に、グーグルクラスルームを活用している実践をお聞きすることができ、大変勉強になりました。実際、学校現場にタブレットが導入されてきて、どのように活かしていけばいいのか悩んでいるのが現状です。具体的な実践例であったため、とても勉強になりました」「子どもたちが共同編集やチャットを活用しながら学びを続けている様子を初めて見られたので、自分の想像が確信に変わりました」(参加者 107 名)



- 第9回：「授業における ICT 活用とそのための体制づくり」2021年1月9日（土）
  - 【演 題】「知的障害特別支援学校の ICT を活用した授業実践」
  - 【講 師】東京都立石神井特別支援学校・指導教諭 海老沢讓 先生
  - 【演 題】「一人1台を実現した公立高等学校での実践」
  - 【講 師】岡山県立林野高等学校・前校長 三浦隆志 先生



講師 海老沢讓先生



講師 三浦隆志先生

## 【参加者のご感想】

「SDG's をテーマに ICT をツールとしての学習活動は参考になりました。ICT 導入時はいろいろな問題が発生することがわかりました。失敗をおそれずがんばりたいです」「ICT の具体的な活用事例を知ることができました。特に表現活動や共有について学ぶことができました。また、校内体制づくりについて細かく解説があり、今後の GIGA 体制づくりに生かしていきたいです。ワクワクする実践をみんなでやっていきたいですね」「授業実践の種類の豊富さ（海老沢先生と同じ都立特支の教員として、もっと本気で取り組まねばと刺激を受けました）」「本校も来年度より新入生がクロムブックを1台所有しますが、懐疑的な意見が多い中、まずはやってみようの思いでおります。先生方のチャレンジに期待をいている状態です。本日の三浦先生の『共有』の機能のお話など、これを使えば有効な意見交換、構築ができるというのが先生たちに具体的に見えてくる、そうした取り組みをしたいと思います」（参加者 89名）

- 第10回：「情報モラル教育のための様々な取り組みのご紹介」2021年1月23日（土）
  - 【演 題】「小学校における大学生による出前授業のご紹介」
  - 【講 師】一般社団法人ソーシャルメディア研究会 吉田航さん、西村澁さん
  - 【演 題】「サイバー犯罪対策課の取り組みについて」
  - 【講 師】京都府警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課
  - 【演 題】「ネット・ゲームが青少年にもたらす光と影」
  - 【講 師】神戸大学大学院医学研究科精神医学分野・教授 曾良一郎 先生

## 【参加者のご感想】

「発達障害とゲーム依存に関係性があることが知れて良かったです。生徒対応に活かしていきたいです。京都府警の取り組みを他府県でもやってほしいです。本校では NTT の出前出張をお願いしました。警察の方にお話いただけると重みを増す気がします」「学生さんが出前授業に取り組んでいること自体素晴らしい。もっとこうした発信が広がっていくとこれからの教育に期待が持てると感じました。ゲーム依存について、傾向のある子供や発達障害のある子供が増えている現場では切実な問題であり、よい話を聞かせてもらえました」「様々に活動されている内容を聞き、刺激を受

けました。特に京都府警さまの取り組みで、体験型の研修があることを初めて知りましたし、高校生サイバー防犯ボランティアの活動は、高校生が小中学生に教えるなど次代を担う人材育成の取り組みとして素晴らしいなと思いました」(参加者 61名)



講師 曾良一郎 先生

●第 11 回：「算数・数学教育における ICT 活用」2021 年 2 月 5 日（金）

【演 題】「誰のために、何のために、そして、どのように ICT を教育に使うのか」

【講 師】京都教育大学・教授 黒田恭史 先生

【参加者のご感想】

「継続して実施できるために、シンプルにつくることの大切さを感じました。また、学生にデジタルを作らせることで、学習内容の精選に気付くことができることのよさを感じました」「不登校で困っている子たちを救う手立てを打たないと必ずしっぺ返しがかかる。自校でも考えないといけないと思います。自校のためではなく子供のためであり未来のために」「多言語のコンテンツが、とてもよかったです。使ってみたくて思いました。学生が、コンテンツを作ることで、学生にとってもこれからの指導に役に立つと思いますし、全国でもニーズが高いと思いました。これから動画を見て、勉強させてもらいます」「国内外の子どもたちをととても大切になされている点が印象に残りました。たくさんのポイントを学ばせていただきました」「現在の学校教育では救えない子たちを救える方法だと思いました」(参加者 160名)



●第 12 回：「ICT を使ったカウンセリング」2021 年 2 月 20 日（土）

【演 題】「オンライン・カウンセリング (ICT を用いた児童・生徒への個別相談) に取り組んで  
——カウンセラーの戸惑い、先入観、実感」

【講 師】京都大学学生総合支援センター・センター長/教授 杉原保史 先生



講師 杉原保史先生



司会 西見奈子先生

## 【参加者のご感想】

「LINE、ZOOM 等でのカウンセリングについて、杉原先生のお話、グループセッションを通して、様々な角度から学ぶことができました」「専門家は保守的だというお話に自らの反省も含めて考えさせられました。前職、教育委員会で SNS 相談の担当だったので、利点を再確認しながら聞かせてもらいました。必要なところに届く支援のために、大切にしていけるべき観点だと思っています」  
「生徒たちがラインに時間を割いているというのがちょっとわかりにくかったのだが、今日、なんだか変わったような気がする。彼らのコミュニケーションツールであり、その中でいろいろな困りごととも文字ならいえるというのもわかった。特に相談室に来て相談するというハードルの高さにはちょっと気が付かなかった。端末も学習以外の使い道として本当に重要な側面を見せていただいた気がします。養護教諭ともこの件については話を深めてみようと思います」(参加者 56 名)

## ●第 13 回 : 「学習科学からの知見をふまえた ICT 活用」 2021 年 3 月 5 日 (金)

【演 題】「学力格差をなくすための ICT 活用」

【講 師】大阪府立大学人間社会システム科学研究科・教授 岡本真彦 先生



講師 岡本真彦先生



司会 齊藤智先生

## 【参加者のご感想】

「適正処遇相互作用やスキーマ理論に基づいた最新の ICT 活用の教授法を学ばせていただき、ありがとうございました」「岡本先生のお話が勉強になりました。スキーマという言葉が何を示しているのかということイメージすることができました。また、今後、一人一台のタブレット端末が整備され、実践に活用されますが、適性を意識すると、タブレット端末の活用と教師による指導のバランスを考えていく必要があると感じました」「単元学習のはじめに必要な適性・スキーマがあり、それらが身につくような教育の必要性とその方法があることがわかり、実践に繋がりたいと思いました。スキーマをもっている教員の授業のわかりやすさや、科目ごとにスキーマがあるというご指摘にも納得でした」(参加者 106 名)

## ●第 14 回 : 「実践交流会」 2021 年 3 月 27 日 (土)

※E.FORUM 全国スクールリーダー育成研修「第 15 回実践交流会」共催

【担 当】京都大学大学院教育学研究科・教授 西岡加名恵、准教授 石井英真

## 【参加者のご感想】

「様々な立場から実践課題を聞いて、自分だったらどうしたのかと考えたり、新たな一面に気づけた」「教材研究の新しい観点を得ることができました。評価、特に観点別評価について考察するき

っかけを得ることができました」「少人数のグループで忌憚のない意見を交流できること[が良かった点]だと思います。だんだんと顔見知りの先生方も増えるので突っ込んだ質問もできて、本音で語り合える点が良いと思います」「研修に参加することで自分自身の教材研究のモチベーションアップにつながると共に全国の先生方の実践を拝聴することで色々な刺激や気づきを頂くことができることが何よりの成果です。本当に参考になります。」「コロナ禍のなかで、できないことが多い中でも、何かできる新しいことを模索し続けた一年でしたが、自らの教育実践を、他の方の実践を拝聴し、意見交換等させていただく中で、鏡を見ているかのように、日々を振り返ることができ、自らの教育実践の中にもあった、見えなかつただけの『普遍性』にたくさん気づくことができました。(中略) 実践の向こうにある子どもたちの変容と学びをじっと見つめる皆さまの眼差しに、まさに、学問としての『教育学』とは、『人を育てる学問』で、こうも面白く、深みがあり、暖かいものかと、E.FORUM で気づかせていただいたように思います」(参加者 20 名)



●第 15 回 : 「学びを豊かにするオンライン授業」 2021 年 6 月 5 日 (土)

【演 題】「オンライン授業で学びを豊かにする 地方公立小学校における実践紹介」

【講 師】鹿児島県阿久根市立尾崎小学校・教頭 山口小百合 先生

【参加者のご感想】

「オンライン授業の実践を知りたいと思って視聴しました。実践の様々な様子が参考になったり面白いと感じたりしました。ねらいに合う手立てを考えていくことが楽しいと感じました」「あくまで授業の目的を明確にし、その目的に沿った学習活動を計画したときに、補いたいところ、さらに高めたいところで ICT を使っていくということが大切だと思いました。また、アメリカの最先端の教育を知り、とても勉強になりました」「公立の一小学校



が行っている実践例として、大変興味深く拝見しました。山口先生が『地域によってオンライン活用に差があることにショックを受けた』と仰っていましたが、個人的にオンライン活用に興味のある教師の熱意に頼ってばかりだと、差はますます広がっていくばかりだと感じました。学校レベル、教育委員会レベルでの計画的な取組をどのように進めるか、大きな課題だと思います」「遠隔授業での学びの多さや、他地域との交流により児童生徒さんが多様な意見などに触れることができること、そして、アメリカとの教育の違いを学ぶことができました」(参加者 110 名)

●第 16 回：「教育 ICT プロジェクトとその先の未来」2021 年 7 月 3 日 (土)

※教育実践コラボレーション・センター「第 39 回知的コラボの会」との合同企画

【演 題】「熊本市が挑む教育 ICT プロジェクトとその先の未来」

【講 師】熊本市教育センター・主任指導主事 前田康裕 先生



講師 前田康裕先生



教育実践コラボレーション・センター長 南部広孝先生

【参加者のご感想】

「ICT そのものより、授業改善に話の重心が行っていて、かえってありがたかった。うまくつかえるように、というより、何のために授業をして、どここの部分をタブレットを使用するかだということが、腑に落ちた点だった」「課題設定や振り返りをどうすればよいのかがわかった。最後に前田先生がおっしゃられた『人は教えてもらおうと思った瞬間、考えないスイッチが入る』自分の経験を踏まえて本当にその通りだと思った。子ども達の『考えたいという欲求』を奪わないようにしていきます」「熊本市が全員で試行錯誤しながら作り上げてこられた ICT を用いた教育というのを見てよかったです。やはり、始めから成功するというのはわからないわけで、教育において失敗は許されないという考えもあるかもしれないが、1年間を通してベターな方法を探そうと思うくらいの気概でやらないといけないのだろうなと思いました。振り返りが大切である、と言い切っておられたのが印象的でした」「休校中のオンライン授業の成果と課題のお話の所で、オンライン授業で『教師がいないと学習できない』子どもたちがいて、自立的な学習者を十分に育てられていなかったことがわかった、ということにハッとしました。『主体的・対話的で深い学び』とここ数年意識してきたものの、現状は、教室にいて、教師がかなり先導した授業だったのだということなんです。去年、学校が休みになるという経験から、再び授業改善の原点に戻って、新たに ICT を活用した授業づくりに私たちは挑んでいきたいと思いました」(参加者 148 名)

## ●第 17 回「GAP 臨時プログラムによるプロジェクト成果まとめ（提言・案）」

2021 年 9 月 11 日（土）

## 【演 題】「学校教育における ICT 活用の在り方

—公正かつ魅力的で効果の高いポスト・コロナの教育の実現に向けて」

【担 当】	京都大学大学院教育学研究科・教授	南部広孝
	京都大学大学院教育学研究科・教授	西岡加名恵
	京都大学大学院教育学研究科・准教授	石井英真
	京都大学大学院教育学研究科・准教授	西見奈子
	京都大学大学院教育学研究科・准教授	服部憲児
	京都大学大学院教育学研究科・准教授	開沼太郎
	京都大学大学院教育学研究科・助教	久富望

## 【参加者のご感想】

「ICT は目的ではなく手段であり、文具であるという点が印象に残りました。オンライン授業では ICT が『使わなければならないもの』となっていますが、ICT は学びの幅を広げるものであり、生徒の個々の学びに対応できるものであることを忘れないようにしたいと思います」「ICT を使うだけでなく、『治める』という表現がすんなりと落ち着いた。モラル+メカニズムを知ることが求められていると感じました」「GIGA スクールの取組における総合的な視座を得ることができました」

「様々な地域の、小学校から高校・大学まで様々な発達段階の子ども達を見る教員が集まったため、多彩な視点で議論が出来てとてもためになった」「自律的学習者、リスクに対する自治の指導、生徒同士の学びをつぶさない、ICT 活用の学校ごとの戦略の重要性、教育データの分析の重要性、教員による協働的な授業づくり、大学教員養成時での OS 活用スキルの研修などなど、たくさんありました」（参加者 128 名）

※登壇者の所属・役職は、研究会開催時点のものです。